

田舟の利用と衰退

琵琶湖博物館 主任学芸員 牧野久実



長く使われ続けた田舟

琵琶湖ではかつて丸子船、漁船、田舟と多種多様な木造船が使われていました。それらの形は地域によって100種類以上があったようです。しかし、近代に入ると木造船は使われなくなり、1930年代から1970年代頃にかけて、丸子船、漁船、田舟と種類によって若干異なる時期に衰退していったようです。丸子船は19世紀末の鉄道の登場や1930年代前後における造船に関する専門集団の解体が、漁船は1940年代におけるエンジンや新素材の導入が、伝統



明治22年の湖岸線(左)と現在の湖岸線(右)

的な姿を衰退させる原因だったようです。もっとも遅くまで使われ続けたのは田舟でした。1993年に琵琶湖周辺で行われた和船分布調査によると、合計667隻が現存し、そのうちの67%が田舟でした。特に、中主、近江八幡、安土、能登川、彦根という湖東沿岸部に集中しており、全体の過半数を占めます。田舟が遅くまで利用されていたのは何故か、また使われなくなった背景は何か、そんなことについて調べてみました。

アンケート調査からわかったこと

かつての船にまつわるアンケート調査データベース「丸子船見聞録」によると、田舟に関する情報は水田の分布と重なる湖南から湖東にかけて、特に近江八幡周辺に集中しています。時代は昭和初期から1960年代頃までを中心に、新しくは1980年代頃までのものであり、ちょうど圃場整備が進む以前の時期と一致します。「一家に一艘こういつた船があり、必要不可欠な物」(戦前 草津 浜大

津港)と言われるほど身近な足として利用されており、主に、稲、米、野菜、下肥を運搬していました。使い勝手が良かった背景には、「家のすぐかたわらに船着場があり、いつも舟を繋いでいた。水路が隣接していない家の人は大変で、脱穀機等をリヤカーや大八車に積んで人力で水路まで運び、舟に乗せなければならなかった。」(昭和20年 40年頃まで 中主町、近江八幡)、「家の裏には川があり、田んぼまで水路として続いていた。川戸が家の玄関のようなもので、田舟で脱穀の機械類まで運んでいた。」(昭和32年頃 草津市津田江・下物・吉田)というように、家や作業場の周辺にめぐらされていた水路が深く関係していました。

現在と明治時代の琵琶湖周辺の地図を見比べてみると、その様子が大きく異なります。明治時代の湖岸線は現在よりもずっと複雑で、内湖の範囲も広い。ところが、明治以後の近代化政策によって水位のコントロールや土地整備が行われた結果、湖岸線や内湖の形態が大きく変わりました。水位の低下対策として明治38年、に南郷洗堰が完成すると、「親父の時代には、南郷の洗堰がなく琵琶湖が浅かったので長命寺まで歩いたが、後に水位が高くなり船で行くようになった」



はしかけさんが復元した伝統的木造船の積荷 (船模型は松井三四郎氏作)

た。」(近江八幡市佐渡江町)という情報からわかるように、水位が高くなり船を使う機会が増えたことが想像されます。データとしてはまだとれていませんが、この時期、和船の数が増えたかもしれません。

近代化による変容

一方、20世紀半ばに琵琶湖と関連流域の環境保全や農業の近代化、防災事業の進展に伴って進められた土地基盤整備計画は船の減少をもたらしました。昭和19年には琵琶湖周辺の内湖を干拓地とする決定が下され、大中の湖、津田内湖、曾根沼、早崎、岡山の内水面の干拓が行われました。琵琶湖周辺の内水面のクレーク地帯も170haにわたって埋め立てられました。また、昭和37年度より圃場整備が実施され、小さな水田の区画を拡大、整形したり、用排水路や道路に合わせ、大型のトラクターなどの近代的な農具が導入しやすい土地整備が図られました。干拓や圃場整備による湖岸線

および内水面の変化は多大なものでした。1983年の時点で、それ以前の琵琶湖の南湖全体のほぼ半分に相当する面積が干拓され、1908年当時と比較すると、湖面積は13.5km²、湖岸線は52.8km、それぞれ縮小しました。さらに、琵琶湖の東西の最小幅は1925年から1997年で約300mも短くなりました。こうした内湖の現象と湖岸線の縮小が船数に影響を与えたことが、アンケート調査から読み取れます。「田舟では米を運んでいた。耕地整理の頃まで持っていたように思う。」(草津市)、「今は圃場整備もされ車で農作物の運搬が楽に出来るが、昭和30年代頃は道路もなく田舟で運搬をしていた。」(能登川町福室)、「水茎町は昔、内湖だった。干拓以前には、人の通る道幅しかなかったため、米を田舟で運搬していた。」(近江八幡) こうした、かつての田舟のある暮らしの風景を模型で再現しようとする活動が、実際に和船を日常生活の道具として見た、もしくは使った経験を持つ「丸子船探検隊」(はしかけ)の手によって進められつつあります。

参考文献

内水面漁撈研究会(編集)(1999)「琵琶湖水系における木造船実態報告」pp.1-108,『現存漁具記録調査報告』琵琶湖博物館研究調査報告7号。滋賀県農政水産部農政課(編集、発行)(1968)『第3次滋賀県農林進捗計画』滋賀海老瀬一(2000)『琵琶湖の基本諸元と歴史の変遷』pp.1-7, 宗宮功編『琵琶湖その環境と水質形成』技報堂出版。東京